発表No.	テーマ
212	関係者外秘_Protected TQM推進室内の仕事のルールに関する困り事の解決

会社・事業所名（フリガナ）

（トヨタボウショクカブシキガイシャ　ヒンシツトウカツブ　カンリシツ）
トヨタ紡織株式会社　品質統括部　管理室

発表者名（フリガナ）

（ヤマダ　タクヤ）
山田　拓弥



発表のセールスポイント

結成１年目、初めてQCサークル活動を実施した、
事務部門の事例です。
みんなの困りごとを深堀りし、
「フォルダやデータ探し」に困っていると判明。
これにかかっている時間の低減を目指し、
QC手法を学びながら実践活用し、
目標を達成した事例です。

１．会社紹介

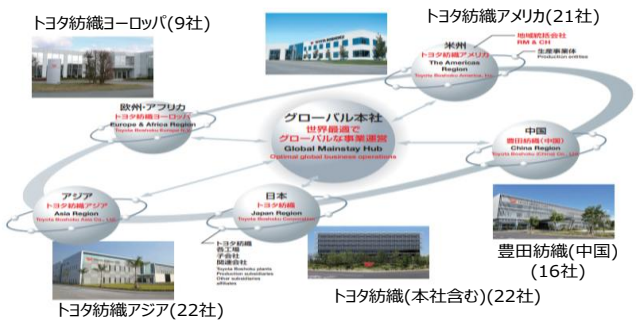
(1/28)

トヨタ紡織

１）会社概要　　２）世界各地に拠点を展開したグローバルワンカンパニー体制

*数字は連結
【創業】1918年
【設立】1950年

【本社】愛知県刈谷市
【拠点】23か国 90社
【売上】約20,370億円
【従業員数】約45,000人



弊社、トヨタ紡織は、創業1918年、設立1950年で、本社は愛知県刈谷市に
位置し、拠点としては、23か国90社あり、売上約20,370億円で、
従業員数は、約45000人在籍しております。

１．会社紹介

(2/28)

トヨタ紡織

３）世界のお客様に、最高のモビリティーライフを提供する製品

（製品ラインナップより抜粋）

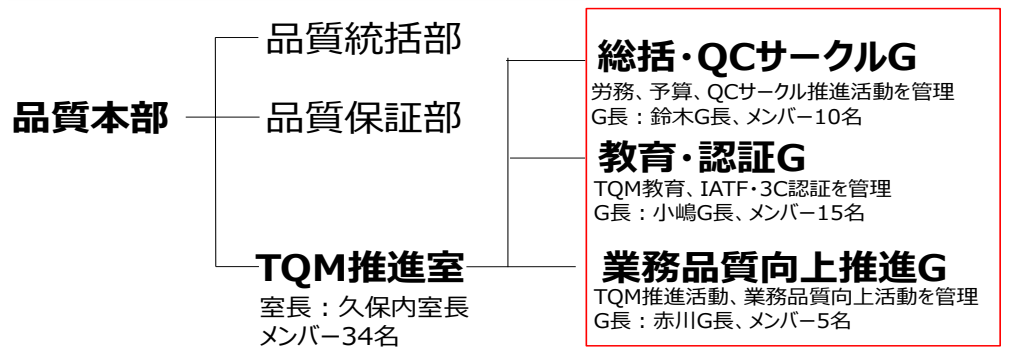


世界のお客様に、最高のモビリティーライフを提供する製品として、
移動空間製品である、シート、内・外装品や
ユニット製品であるFPT製品、電動製品を提供しています。

２．職場紹介

(3/28)

トヨタ紡織



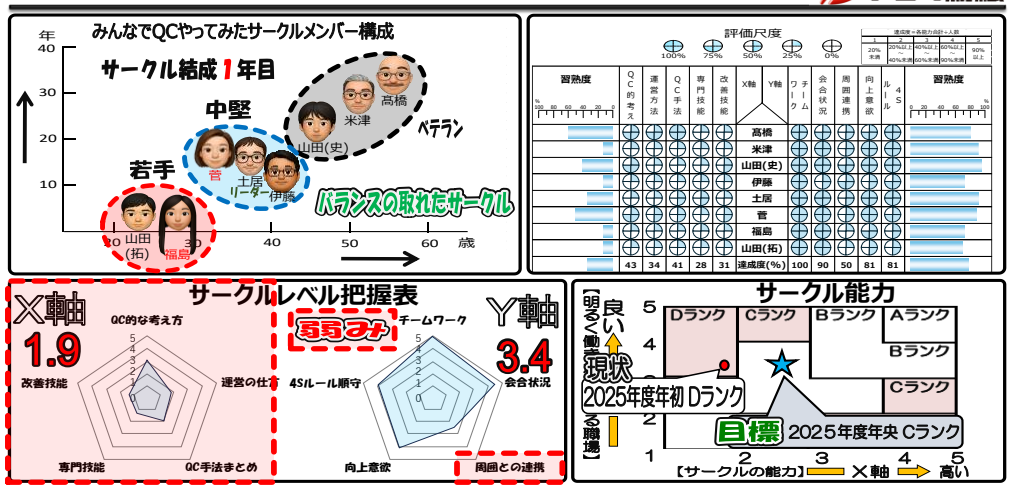
TQM推進室3つのグループ混成でQCサークルを結成

私たちのサークルは、品質本部に属しており
TQM推進室内の総括・QCサークルG、品質教育・認証G、
業務品質向上推進Gの3グループ混成チームです。

３．サークル紹介

(4/28)

トヨタ紡織



私たちのサークルは結成1年目で、
サークルレベル評価によりX軸全般と「周囲との連携」に課題があることが判明し、
現在のDランクからCランクへの向上を目指して活動を進めます。

QCサークル紹介	（フリガナ）		発表形式
	みんなでQCやってみた（ミンナデQCヤッテミタ）		PC
本部登録番号	25-326	サークル結成年月	2025 年　5 月
メンバー構成	8 名	会合は就業時間	(内)・外・両方
平均年齢	45 歳（最高　59 歳、最低　27 歳）	月あたりの会合回数	約 4 回
テーマ暦	本テーマで　1 件目　社外発表　1 件目	1回あたりの会合時間	約 1 時間
本テーマの活動期間	2025年 5月 ～ 2026年 12月	本テーマの会合回数	26 回
発表者の所属	トヨタ紡織株式会社　品質統括部　管理室	勤続	3 年

4．テーマ選定

1）意見の集約

◎：5点 ○：3点 △：1点 ×：0点

No.	評価項 ＼ 困りごと一覧	予想効果	緊急性	困り具合	将来の見込み	上位方針	全員参加	活動期間	実力発揮	総合評価
1	新入社員や異動者に予算管理等のルールが分かりにくい	○	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	30
2	Box内で欲しい資料を探すのに時間が掛かる	○	△	◎	△	×	◎	◎	○	23
3	TB-Oneで会社の仕組みを調べる時にどこを探せばいいのか分かりにくく時間が掛かる	◎	○	◎	○	△	◎	◎	◎	37
4	必要書類の場所や書き方について質問を受けたが、自分もよく分かっていない為今後同じような質問を受けた時の為に何とかしたい	○	△	○	△	×	△	○	○	15



メンバーの困りごとを8項目で評価した結果、
「TB-Oneで会社の仕組みを調べる際に必要な情報を見つけにくく
時間がかかる」という課題が最も総合評価が高いことが分かりました。

4．テーマ選定

2）背景

TQM推進室では24年度から新たなメンバーが12名加入。

新たなメンバーと室内QCサークル活動を25年度から実施。
(メンバーは8名、アドバイザー1名が活動を指導。)

困り事を確認し、改善できるテーマがあるか確認。





テーマ選定の背景として
2024年にTQM推進室内で大きく人の入れ替えがあり、
そのメンバーも含めて困りごとの確認をし、
職場をよくしたいという思いで取り上げることにしました。

4．テーマ選定

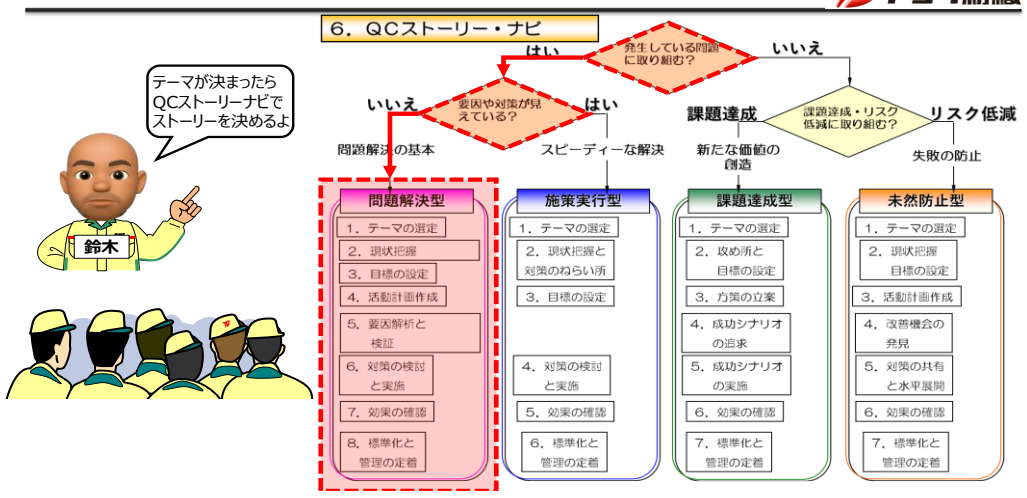
新規メンバーが仕事のルールが理解できておらず困っている･･･

仕事のルールに関する困りごと解決に取り組むことに決定!!



新規メンバーが仕事のルール理解ができていないことに困っていることが分かり、
テーマとして、「仕事のルールに関する困りごと解決」を取り組むことにしました。

4．テーマ選定



テーマが決まったのでQCストーリーナビでストーリーを決めると、
発生している問題に取り組む 『はい』、
要員や対策が見えている『いいえ』、
今回の取り組みテーマでは、問題解決型ストーリーで取り組むことにします。

5．現状把握

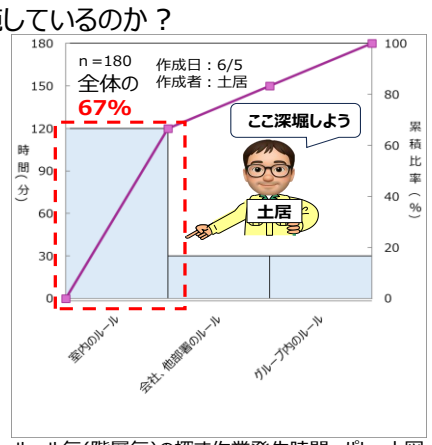
1）どの階層のルールでメンバーは調べ事を実施しているのか？

過去半年間で月当たりで、**「どの階層のルール」**で**「何分」**調べ事作業が発生したか調査

項目	メンバー A	B	C	D	E	F	計
会社、他部署のルール	0	0	5	5	10	10	30
室内のルール	15	25	30	10	0	40	120
グループ内のルール	0	5	5	5	0	15	30

パレート図からわかったこと：
室内のルールに関する調べ事時間が120分あり、
全体の67%を占める。

室内のルールに絞り、深堀りを実施



ルール毎(階層毎)の探す作業発生時間　パレート図

過去半年間で月当たりで「どの階層のルール」で
「何分」調べ事作業が発生したかを調査したところ、
調べごと時間の67%を占める「室内のルール」が
課題と判明したため、室内ルールに対象を絞って分析を進めることとしました。

5．現状把握

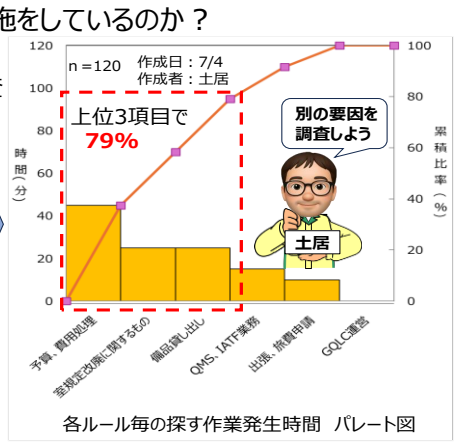
2）室内のどのルールでメンバーは調べ事を実施をしているのか？

室内ルールで、過去半年間で月当たりで
「何の業務」で、**「何分」**調べ事作業が発生したか調査

項目	メンバー A	B	C	D	E	F	計
室規定改廃に関するもの	10	0	0	0	0	15	25
備品貸し出し	0	5	5	5	0	10	25
出張、旅費申請	0	5	5	0	0	0	10
予算、費用処理	5	15	5	5	0	15	45
QMS、IATF業務	0	0	15	0	0	0	15
GQLC運営	0	0	0	0	0	0	0

パレート図からわかったこと：
予算が最も多く、室規定の改廃、備品貸し出しが
2番目に多い。上位3項目で全体の79%

**特定業務のルールへの絞り込み/深堀り
ではなく、別の共通する要因を調査**



各ルール毎の探す作業発生時間　パレート図

室内ルールに関する調べごと時間を業務別に分析した結果、
「予算・費用処理」「室規定の改廃」「備品貸し出し」の上位3項目で
全体の79%を占めていたため、
これらに共通する要因を深掘りすることとしました。

5．現状把握

3）どの職層がどのルールで調べ事を実施しているのか？

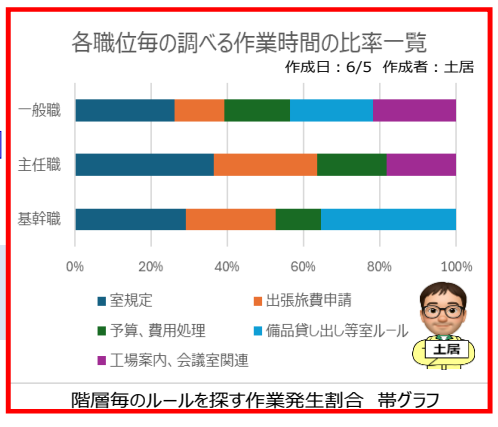
過去半年間で職層毎で、**「どの室内ルール」**で**「何分」**調べ事作業が発生したか調査

	室規定	出張旅費申請	予算、費用処理	備品貸し出し等室ルール	工場案内、会議室関連	合計
基幹職(1名)	15	10	5	15	0	45
主任職(2名)	20	15	10	0	10	55
一般職(3名)	30	15	20	25	25	115

比率に換算

帯グラフからわかったこと：
特定の職層で特定のルールを調べることに作業時間を
占めるわけではない

職層毎で整理せず別の要因を調査



階層毎のルールを探す作業発生割合　帯グラフ

職層別に調べごと時間を分析した結果、
特定の職層と調査時間との関連性は確認できなかったため、
別の要因に着目して分析を進めることにしました。

5．現状把握

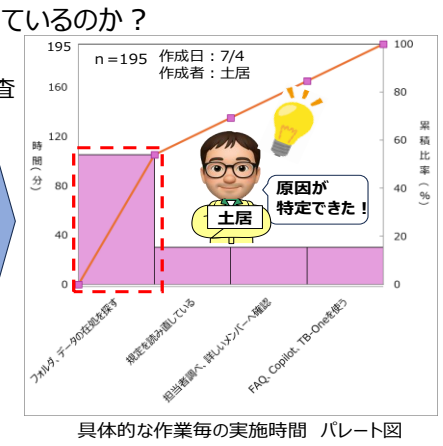
4）実際にメンバーはどんな調べごとの作業をしているのか？

過去半年間で月当たりでメンバーが
「どんな具体的な作業内容」で**「何分」**実施したか調査

	メンバー A	B	C	D	E	F	計
規定を読み直している	5	5	10	0	0	10	30
担当者調べ、詳しいメンバーへ確認	5	5	5	5	0	10	30
FAQ、Copilot、TB-Oneを使う	0	5	0	10	0	15	30
フォルダ、データの在処を探す	0	30	15	20	10	30	105

パレート図からわかったこと：
フォルダやデータの在処を探す作業が全体の53%を
占め、一番割合が大きい

フォルダやデータを探す時間自体が問題



具体的な作業毎の実施時間　パレート図

調査の結果、調べごと時間の53%を占める
「フォルダやデータの在りかを探す作業」が主な原因であることが分かり、
メンバーの困りごとの原因を特定しました。

5．現状把握

5) まとめ

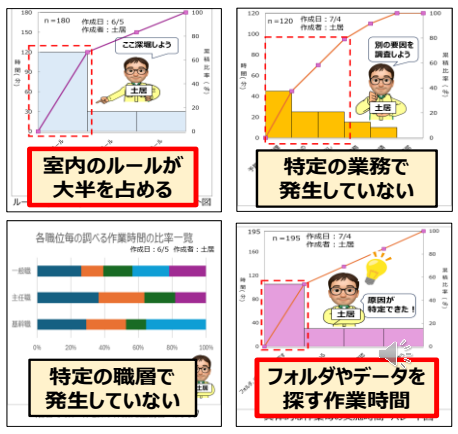
私たちの困りごと、
「しごとルールの調べ事を減らす」ためには？

(1) どのルールで調べ事をしているのか？は、
「室内のルール」が大半を占める。

(2) **特定の業務**に対して**調べる時間**が
発生しているわけではない。

(3) **特定の職層で調べ事に対して、**
時間が発生しているわけではない。

(4) 調べるための具体的な作業で、業務共通で
フォルダやデータを探す作業時間が掛かる。



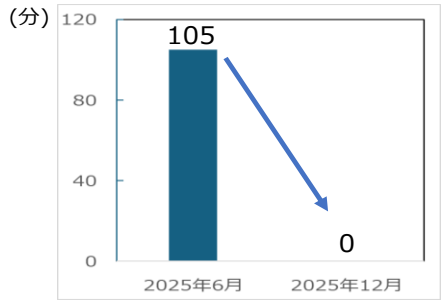
現状把握の結果、調べごと時間の多さは特定の業務や職層ではなく、
業務共通で発生している「フォルダやデータを探す作業」に起因していることが
分かり、これらの困り具合の解消する活動を進めていきます。

6．目標設定と活動計画

1) 問題点

室内ルールに対してのフォルダやデータの在処を探してしまっている。

2) 目標



何を：データやフォルダを探す時間

いつまでに：2025年12月

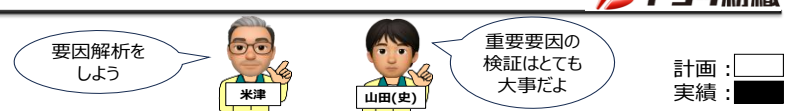
どれだけ：105分/月➡0分/月



問題点は室内ルールに対してのフォルダやデータの在処を探し回っていることで、目標は、新たにメンバー配属される前までの2025年12月までにデータやフォルダを探す時間を月105分から月0分にすることにしました。

6．目標設定と活動計画

3) 活動計画



計画：□
実績：■

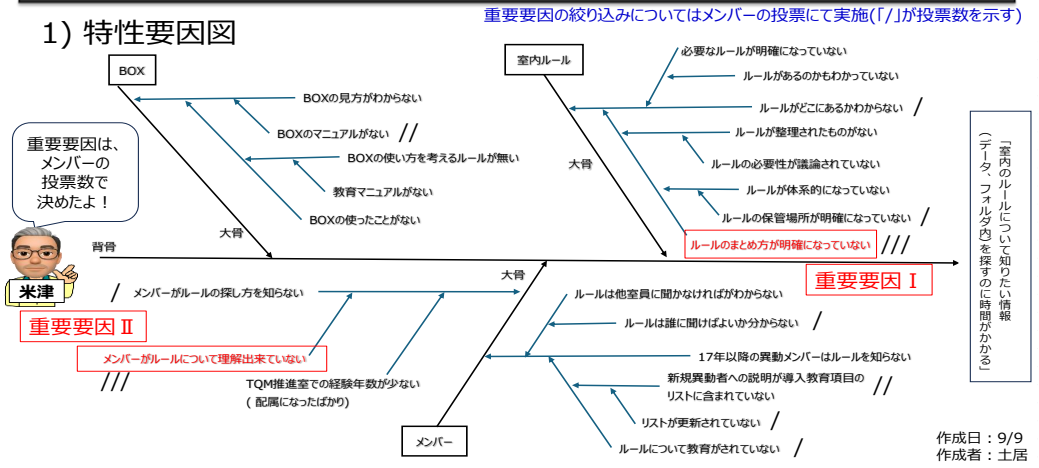
	主担当	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
テーマ選定	全員	■							
現状把握	山田(史)		■	■					
目標設定	高橋			■					
要因解析	米津				■	■			
対策立案	伊藤					■	■		
対策実施	伊藤							■	■
効果確認	土居							■	■
振り返り、まとめ	山田(拓)								■

活動計画は、5月から12月を計画し、
項目としてテーマの選定から振り返り、まとめまで、主担当を決め進めました。

7．要因の解析

1) 特性要因図

重要要因の絞り込みについてはメンバーの投票にて実施(「/」が投票数を示す)



特性要因図による分析の結果、「ルールのまとめ方が明確でないこと」と
「メンバーのルール理解不足」の2点を重要要因として特定しました。

7．要因の解析

2) 特性要因図から導いた重要要因の検証

No.	重要要因	検証結果
Ⅰ	室内ルールの まとめ方が 明確に なっていない。	ルールの1つである室規定の保存先を確認すると、 規定毎に連番はついているが、【室内規定管理要領】の 中にも保存先などの記載が無いことを確認できた。 ↓ 真因と断定
Ⅱ	メンバーが室内 ルールについて 理解していない。	室内メンバーのルール理解状況を確認 →TQM推進室の基本ルールの 認知率＝30.7%(新規メンバーのみ) ↓ 真因と断定



重要要因の検証結果から、
「ルールの保存先が明確化されていないこと」と
「新規メンバーのルール認知率が30.7%と低いこと」の2点を
真因として特定しました。

7．要因の解析

3) まとめ

「室内のルールに対して、知りたい情報(データ、フォルダ内)を探すのに
時間がかかる。」という特性に対し、特性要因図を用いて重要要因の特定を実施。

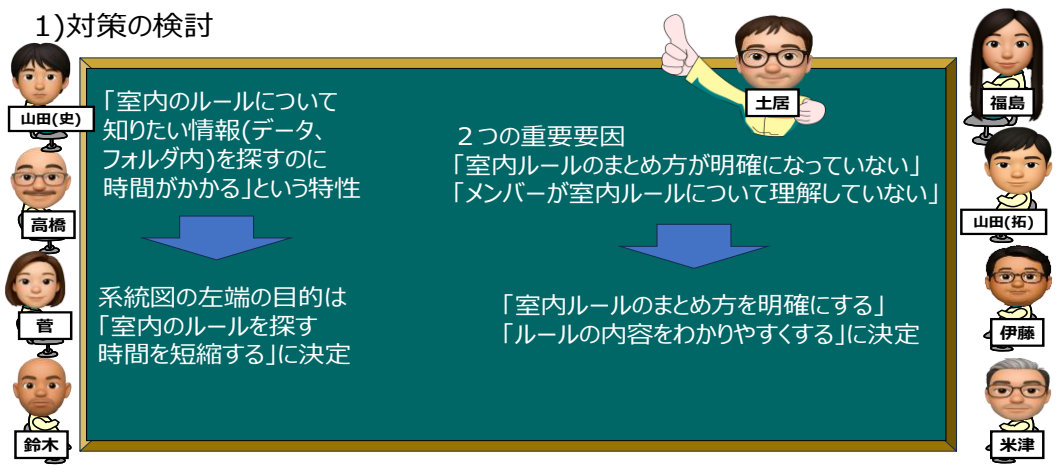
重要要因を投票で一度決め、その要因の検証を行い、
「室内ルールのまとめ方が明確になっていない」
「メンバーが室内ルールについて理解していない」
の2つが真因であることが確認できた。



「室内のルールに対して、知りたい情報を探すのに時間がかかる」という
特性に対し、特性要因図を用いて重要要因の特定し、検証を行うと
「室内ルールのまとめ方が明確になっていない」、
「メンバーが室内ルールについて理解していない」が真因であると確認できました。

8．対策の検討と実施

1)対策の検討

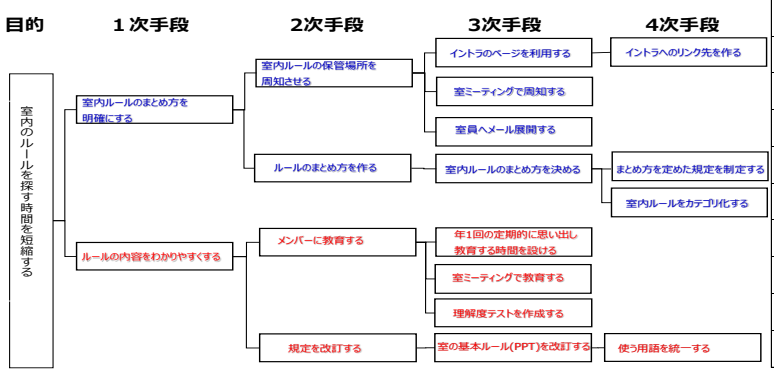


真因である「ルールのまとめ方の不明確さ」と「ルール理解不足」を解消するため、
「室内ルールのまとめ方の明確化」と「ルール内容の分かりやすさ向上」の
2つの対策を実施することにしました。

8．対策の検討と実施

1) 対策の検討

【評価基準】 ◎:5点 ○:3点 △:1点 ×:0点



	評価項目					
	実現性	効果	作成工数	持続性	得点	順位
イントラのページを利用する	○	○	△	◎	11	6
室ミーティングで周知する	◎	◎	○	○	16	1
室員へメール展開する	◎	○	◎	○	16	1
室内ルールのまとめ方を決める	○	○	△	○	10	7
室内ルールをカテゴリ化する	◎	○	○	◎	16	1
年1回の定期的に思い出し教育する時間を設ける	◎	○	○	◎	16	1
室ミーティングで教育する	◎	○	○	○	14	5
理解度テストを作成する	○	○	△	△	8	9
室の基本ルール(PPT)を改訂する	△	○	△	◎	10	7

さらに実行レベルまで落とし込みを行う為、系統図を用いて
サークルメンバーで項目についてすり合わせを行いました。

8. 対策の検討と実施

2) 対策の決定

No.	対策内容
1	イントラのリンク先を作る
2	室ミーティングで周知する
3	室員へメール展開する
4	室内ルールをカテゴリ化する
5	年1回の定期的な思い出し教育をする
6	室ミーティングで教育する。

9つの対策内容から、
期日(12月)までに
完了できる6つの対策内容を
実施するように絞り込みを実施

対策内容から
具体的な実施内容を決定

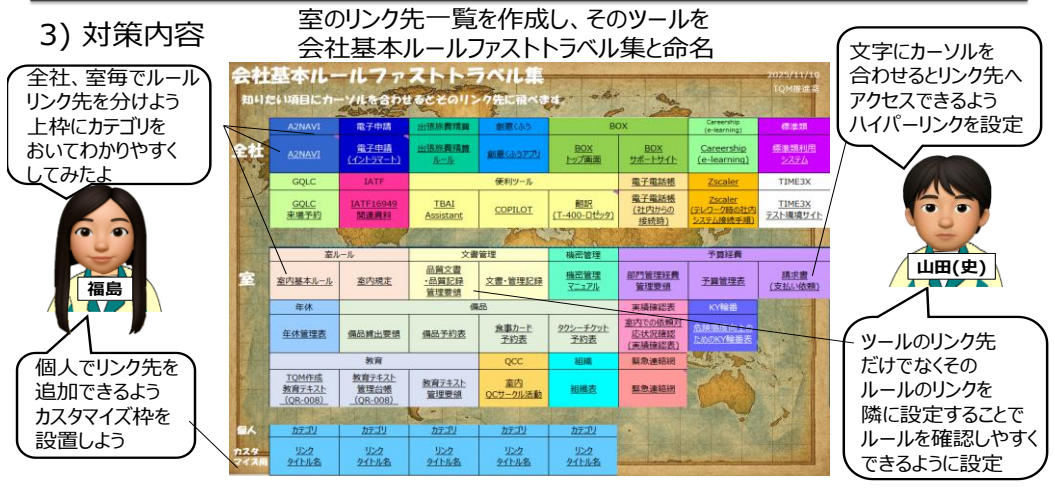
(1) 室ルールのリンク先一覧を作成する
(2) 作ったツールを室員へ展開する

対策内容から具体的な実施内容を決定し、
「室のルールのリンク先一覧を作成する」「作ったツールを室員へ展開する」の
2点について、代表で次の頁で説明します。

9. 対策の検討と実施

3) 対策内容

室のリンク先一覧を作成し、そのツールを
会社基本ルールファストトラベル集と命名

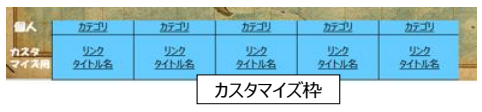


「会社基本ルールファストトラベル集」を作成し、
ルールや関連フォルダへ直接アクセスツールを作成しました。

9. 対策の検討と実施

3) 対策内容

ルールの在処を一度確認した後は
そのルールのリンク先をファストトラベル集に
追加できるように追加手順を記載



追加手順

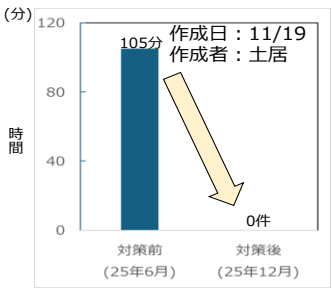
1. ルールリンク集のシートにある個人カスタマイズ用のカテゴリのセルにカテゴリを入力する。
2. リンク先タイトル名のセルにタイトルを入力する。
3. リンク先のURLをコピーする。
4. リンク先タイトル名のセルにカーソルを合わせ、右クリックする。
5. リンクをクリックする。
6. アドレス欄にURLを張り付けをする。
7. エンターキーを押す。

カスタマイズ枠やリンク先が変わった場合に対応するため、
追加手順を作成しました。
手順としては、1~7となります。

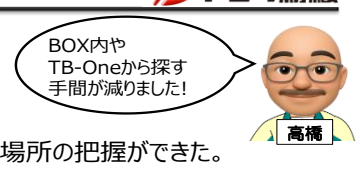
9. 対策の検討と実施

4) 効果確認

(1)有形の効果



(2)無形の効果



- 室のルールの理解、室ルールの場所の把握ができた。
- QCサークル活動を通して特性要因図、系統図の使い方を理解できた。
- QCの問題解決ステップが理解できるようになった。
- 他グループの管理する業務の理解が向上した。
- QCサークルリーダーのリーダーシップ向上、会合を進めるスキルを向上できた。

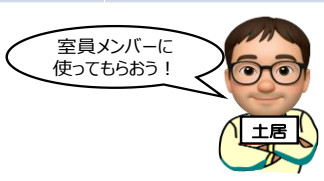


有形の効果として、「会社基本ルールファストトラベル集」の導入により
情報探索時間を105分から0分に削減するとともに
無形効果としてルール理解の向上やQC手法の習得、
リーダーシップ向上などのも得られました。

10. 標準化と周知徹底

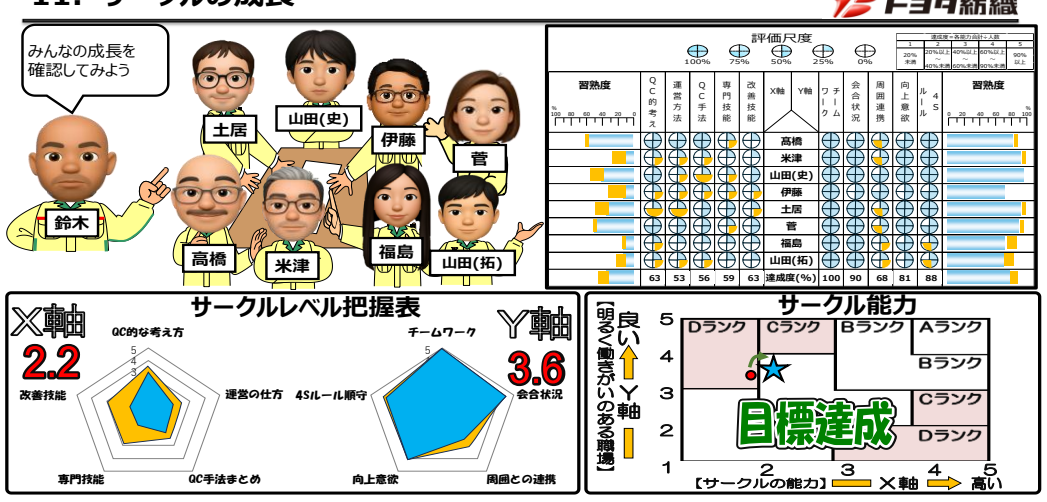
なぜ (Why)	いつ (When)	誰が (Who)	何処で (Where)	何を (What)	どの様に (How)
標準化	11/11	QCサークル リーダー	QC 会合	基本ルール ファストトラベル集	メンバーへ 展開
周知 徹底	11/25	QCサークル リーダー	業務 報告会	基本ルール ファストトラベル集	室員へ 展開


業務報告会の様子



標準化として、11/11にQCサークルリーダーがQC会合で
会社基本ルールファストトラベル集をメンバーへ展開をしました。
周知徹底としては、11/25にQCサークルリーダーが業務報告会で
会社基本ルールファストトラベル集を室員へ展開をしました。

11. サークルの成長



活動を終えて、サークルの成長を個人別に確認すると
全員成長が見られレーダーチャートでも、弱みだったX軸全般や
Y軸の周囲との連携も伸びており、
サークルレベルもCランクになり目標を達成することが出来ました。

12. 反省と今後の課題

サイクル	プロセス	良かったこと	反省・苦労したこと	今後の課題
P	テーマ選定	メンバーの悩み、困り事を共有することができた	—	QCストーリーの流れを一通り理解したので次は頑張ります。
P	現状把握	現状把握で分かったことを整理し、問題点にたどり着くことが出来た	現状把握に時間がかかり、以降の取り組みに影響が出た	各ステップを計画通りに実施するようにする
P	目標の設定	目標を明確にすることができた	—	
D	要因解析	要因解析する上でルールの知識を高めることができた	意見のとりまとめに苦労した	現状把握はQCサークル活動で最も重要なステップだよ
D	対策案検討	対策の方向性を全員で議論し共通認識を得ることができた	限られた期間内で対策をするのに実施する範囲を限定してしまった	対策ツールの更なる改善
D	対策実施	—	対策実施の期間が短くなってしまった。	対策実施ができる十分な期間を確保する
C	効果の確認	対策ツールの効果を複数のメンバーが実感することができた。	無形、他への波及効果を見据えて対策をすることが出来ていなかった	—
A	標準化 周知徹底	まとめを5W1Hで整理するやり方が参考になった。	標準化と周知徹底の取組みを実施する時間が限られてしまった	—



現状把握に十分な時間をかけたことで真因を明確にできた一方、
後半の活動時間が不足したため、
今後は全体スケジュールを意識した計画的なQCサークル活動を
進めたいと考えます。

13. QCサークル活動を通したメンバーのコメント

メンバー	コメント
土居	活動の進め方を理解できた。リーダーとしてメンバーへの仕事の振り分けが不十分だった。
山田(史)	初めての経験でしたが、現状分析方法やチームワークの大切さを、楽しみながら勉強できました。
山田(拓)	今回の活動でQCサークルのやり方を体験でき、勉強になりました。
高橋	教えることより、いざ自分がQCC活動をやるとなると難しい。
福島	テーマの決め方、進め方など全体を知ることができ勉強になりました。
伊藤	初参加でしたが、問題点の解消ができてよかった。
米津	メンバーとの会合もリーダー主導で意見を出し合い、進められた所が良かった。
菅	他Gの方とのコミュニケーションの機会であったり、室のルール等を知る機会になり参加出来てよかった。

活動を通してメンバーからは、
QCサークル活動の進め方を理解できたことや
チームワークの大切さを認識したなど、
活動を通じて多くの学びと成長が得られたとの声がありました。